

18.9%、ドイツ18.0%と続いている。

日本の高齢者は、公的年金の他に、50代までに行った老後の備えとして、主に「預貯金」や「個人年金への加入」を行っているが、一方で約4割は「特に何もしていない」と回答している。また、5割超が、現在の貯蓄や資産が老後の備えとして「足りない」と回答している。

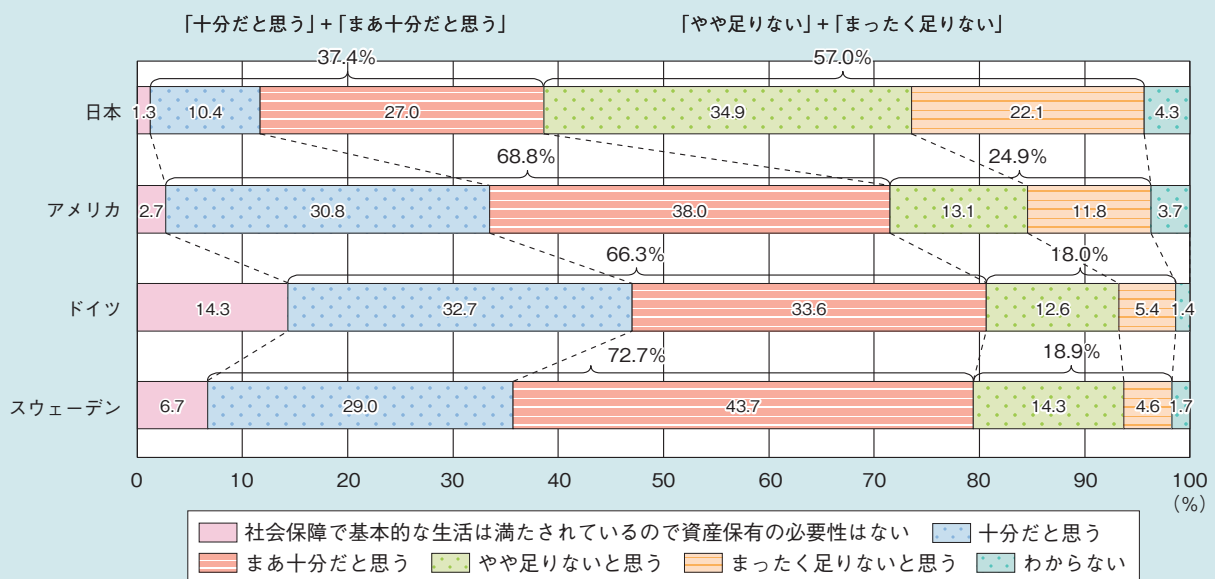
若い時期から老後を見据えて準備を始めることが重要と考えられる。

## 2 就労について

### (1) 収入の伴う仕事をしたいと回答した高齢者の割合は、日本が44.9%

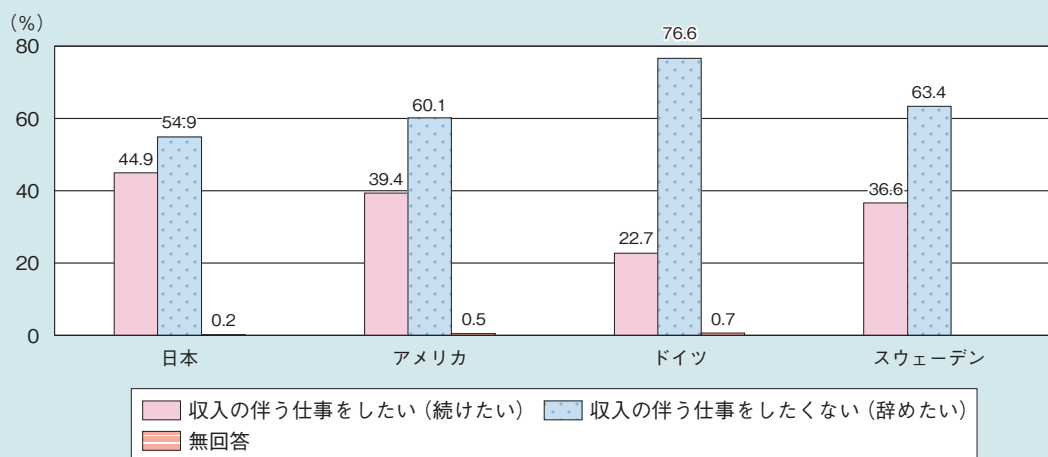
今後、収入を伴う仕事をしたいか尋ねたところ

図1-3-2 老後の備えとしての現在の貯蓄や資産の充足度



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成27年）  
 (注) 対象は60歳以上の男女（施設入所者は除く）

図1-3-3 今後の就労意欲



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成27年）  
 (注) 対象は60歳以上の男女（施設入所者は除く）

る、調査対象国すべての高齢者の過半数が「収入の伴う仕事をしたくない（辞めたい）」と回答している。その一方で収入を伴う仕事をしたい（続けたい）とする高齢者の割合は、日本が44.9%と最も多く、次いでアメリカ39.4%、スウェーデン36.6%、ドイツ22.7%と続いている。（図1-3-3）。

## (2) 収入の伴う仕事をしたい主な理由は、日本とアメリカは「収入が欲しいから」、ドイツとスウェーデンは「仕事が面白いから」

収入を伴う仕事をしたい（続けたい）理由として、日本とアメリカは「収入が欲しいから」、ドイツとスウェーデンは「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」と回答する割合が多く、仕事に求めるものの違いが表れている（図1-3-4）。

調査対象国すべての高齢者の半数以上が「収入を伴う仕事はしたくない」と回答するなか、日本の高齢者の44.9%は「収入の伴う仕事をし

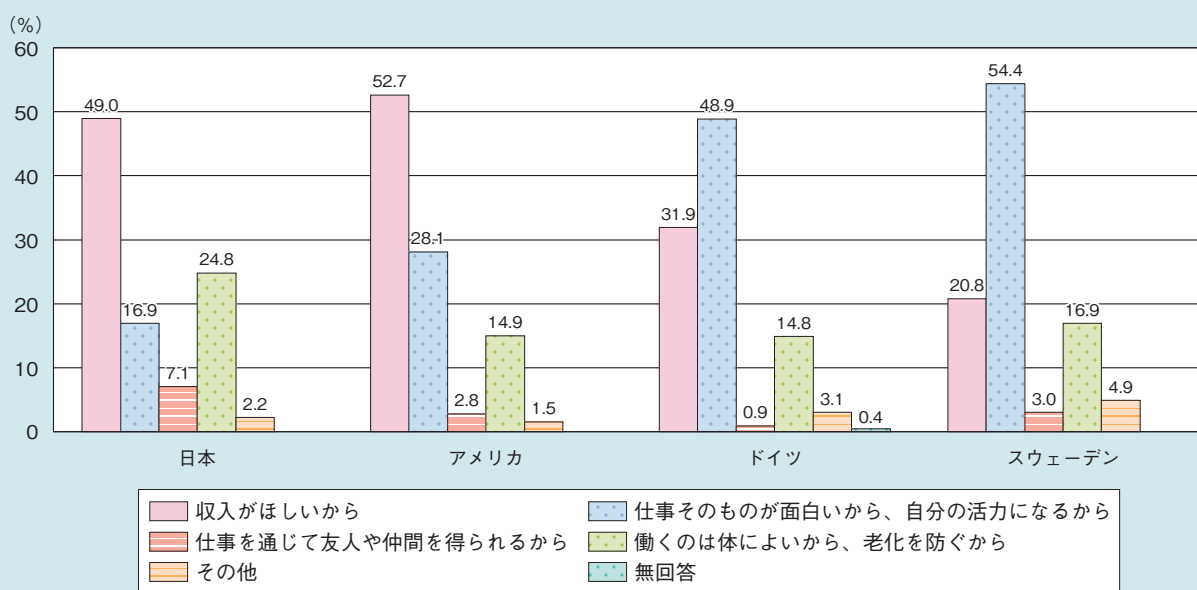
たい」と回答している。就労を希望する高齢者に対して、多様なニーズに対応した就業機会の提供を図る必要がある。

## ③ 友人・知人との交流について

### (1) 近所の人と「病気の時に助け合う」高齢者の割合は、日本が最も少ない

ふだん、近所の人とは、どのようなお付き合いをしているか尋ねたところ、日本、アメリカ、スウェーデンは「外でちょっと立ち話をする程度」、ドイツは「お茶や食事を一緒にする」と回答する割合が最も多い（図1-3-5）。「相談事があったとき、相談したり、相談されたりする」と回答する割合は、ドイツ48.3%、スウェーデン31.2%、アメリカ28.3%、日本18.6%となっており、また「病気の時に助け合う」と回答する割合は、ドイツ31.9%、アメリカ27.0%、スウェーデン16.9%、日本5.9%となっており、いずれも日本の割合が最も少な

図1-3-4 就労の継続を希望する理由



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成27年）  
 （注）対象は60歳以上の男女（施設入所者は除く）